

第9回 奈井江町まちづくり町民委員会 議事録（要旨）

【日 時】 平成 25 年 11 月 26 日（火） 午後 6 時 00 分～午後 7 時 40 分

【場 所】 役場（大会議室）

【出席者】 委員～9名（欠席6名） 町～10名

委員	太田裕治	○	中村尚子	○	東藤 勲	○	堀 美鈴	○	山口俊哉	×
	萬由美子	○	千徳信行	×	三原 新	○	山 節子	○	石川トヨ子	○
	鈴木賀之	○	小桜正子	×	堀 真希	×	加藤智恵美	×	米内公大	×
町	北町長、三本副町長、馬場課長、小澤健康ふれあい課長 事務局：相澤課長、松本係長、井内主査、星野主事、高橋主事、長縄主事補									

1. 開会
2. 委嘱書 交付
3. 委員長あいさつ（委員長）
4. 町政運営等に関する主な動向について【説明資料4 北町長より説明】

皆さんこんばんは。第9回目ということで、お集まりをいただき、ありがとうございます。

まずは冒頭、台風26号による豪雨で亡くなられた、伊豆大島の方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますと共に、被災されたの方々に対し、お見舞いを申し上げたいと存じます。

さて、今回の災害では、対策本部の指揮や情報伝達のあり方等について、報道されておりますが、奈井江町においては、災害対策本部 運営規定により、万が一、本部長である私が不在の場合には、副本部長である副町長、または教育長が、その職務を代理するとしております。

また、町・J A・商工会・連合区長で構成する『防災協力員会議』でも協議をしておりますが、緊急時については、地域内の情報伝達、非難時の協力等、各連合区と連携を密にして取組み、万全を期して参りたいと考えております。

次に、米の作況状況について、ふれたいと思いますが、10月15日現在の作況指数では、全国で102、北海道105、北空知は104と発表されています。

今年は雪解けが遅く、天候不順が続く、稲の生育が大変心配していましたが、実りある秋を迎えることができ、心から嬉しく思う次第です。

昨年との比較では、「米全体の収穫量は減少しているものの、低タンパクの高品質米については、昨年を上回っている」とお聞きしております。

厳しい環境の中、農家の皆さんの弛まない努力、技術に、改めて敬意を表するところであります。

生産者の方々の努力が、消費者の皆さんに伝わり、今まで以上に高い評価を得て、奈井江産ブランドの確立が図られることを期待しております。

次に、中空知5市5町により開発してきた、戸籍の電算システムが9月30日に本稼働をいたしました。

広域で取り組むメリットとして、災害時のバックアップ等の機能強化や経費の削減に繋がっており、今後も、広域連携を行うことにより住民サービスの向上がありましたら、積極的に各市町と協議を進めて参りたいと考えております。

次に交流プラザ「みなクル」についてですが、地域コミュニティの拠点として整備して参りましたが、この施設が、10月1日にオープンをいたしました。

9月29日には、「落成式」と「北翔大学との連携協定 調印式」を行い、引き続き町民向けの「施設見学会」を行いました。休日にも係わらず250人余りの町民が訪れました。

中には早速、交流サロンで、お茶を飲みながら友だちと話の輪を咲かせる方もおり、町民の皆さんの期待感の高さを感じたところです。

その後の活用状況等については、後ほどイベントを開催した担当課から報告させますが、「障がい福祉フォーラム」や「遊びのフェスティバル」を開催しており、町内外から会場一杯の来場者が訪れると共に、江別市にあります北翔大学の学生さんが、それぞれ多数参加する中、積極的にリーダーシップを発揮され、盛会の中で事業が行われております。

また、10月1日には、みなクルを発着点とした公共交通もスタートしています。

これから冬を迎え「町民の足」の重要性が増してきますので、安心・安全な運行を心がけ、たくさんの皆さんに利用されるよう努めて参ります。

次に、交通死亡事故ゼロ連続1500日について申し上げます。奈井江町では、今までの連続記録が1,252日でありましたが、これを大きく超え、10月23日、1500日を達成しました。

日頃から「町民の安心、安全が一番の務めである」と考えている私にとって、何よりの喜びであります。

11月14日には、関係者や町民の方142名の参加をいただき、町民大会を開催し1500日達成を祝うと共に、次の大きな目標に向け引き続き交通安全普及活動に傾注していくことを、皆さんと誓いあったところです。

最後に、冬の節電対策について申し上げます。

今年の冬に北海道全体で6%の節電を目指し、取組むことが新聞等でも報じられております。奈井江町においては、既に公共施設をはじめ、各事業所の方々でも節電対策は実施されておりますが、引き続き、町民の皆さんにも周知を行いながら、取組んで参りたいと考えております。

電力が不足した場合においては、北海道から連絡があり、国道や道道に整備された放送設備や農家FAXの活用のほか、広報車の巡回などにより、皆さんへ節電の協力をお願いして参りたいと考えております。

また、庁舎内でもパソコンや照明の制限を設けることになり、皆さんにはご不便をおかけいたしますが、ご理解をいただきたいと思います。

以上、最近の町政の動行について、お話をさせていただきました。この後、本日の議案であります定住自立圏構想について、説明いたします。皆さんから忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

5. 議題

(1) みなクルの活用状況について【説明資料1 おもいやり課 馬場課長より説明】

(委員)遊びのフェスティバルには商工会青年部の方で、かぼちゃづくりで参加させていただきました。どれくらい子どもが来てくれるのかなと思ったのですが、本当に大盛況で、子どもさんや、お父さんお母さんも喜んでくれたし、さらには、おじいちゃんおばあちゃんの世代の方々も喜んでくれたので、本当に良かったのではないかと思います。商工会ではピザづくり体験も行いまして、それも人がたくさん来てくれて良かったです。今後は、2月の冬祭りに頭がいっぱいで、雁木空間や駐車場、屋内外を使うというのも良い見所だったと思い、今後も使えるように頭を使っているところです。

(委員長) この2つのイベントに参加された方いらっしゃいますか。

(委員) 初めて参加しました。コープ札幌のトドックが何かしたのでしょうか。

(馬場課長) トドック、くまのようなぬいぐるみが来まして、子どもたちと体操やゲーム、読み聞かせを行いました。

(委員) コープに依頼したから来たのですか。コープの方の自主参加ではなくて。

(馬場課長) たまたま、春先にコープ札幌のトドックの事業で、読み聞かせ行っていますよ、との案内がきたので申し込んでみたら、ちょうど良いタイミングで当たったものですから。

(委員長) これからの使い道というのは、正直、今の段階では大変なものだと思います。しかし、冒頭で皆さんの言われたとおり、これからは前向きな活用が出てくるのではないかなと思います。

(相澤課長) 今、冬まつりの宣伝があったので、企画広報係の事業宣伝もさせていただきたいと思います。広報担当の井内が宣伝します。

(井内主査) 企画広報係で主査をしています井内と申します。今週の日曜日に、北翔大学との連携事業で、みなクルでの企画広報係の担当としましては第1回の、パソコン教室を開催します。内容は、町民の皆さんと大学生とが交流をしながら、パソコンを使って年賀状のデザインを作るものです。15日の広報にチラシを班回覧で回していました。定員が10名と若干少ないのですが、みなクルを会場に行きたいと思っていますので、今年の年賀状のデザインがその場ででき上がりますので、皆さんに参加していただければと思っています。

(相澤課長) 年賀状づくりを、北翔大学でデザインを専攻しています、女子学生と男子学生が来てくれますので是非、参加していただいて、今年の正月には「この人の年賀状すごいな」というものが作れるのではないかと思います。是非参加していただければと思っております。パソコンの台数が多くは用意できず、10台しかありませんので、定員が10名になります。2人で1台使っても良い人がいらっしゃれば、もう少し人数を増やすことも可能かなと思っています。是非積極的に参加していただければと思っております。よろしく申し上げます。

(委員長) これは個室ではなく、オープンで行っているのですね。通りすがりの人でも見学できる状態で行っているのですね。

(相澤課長) 交流サロンで行っておりますので、見学可能となっております。

(委員長) それでは、本議題に入りたいと思います。定住自立圏構想についての説明を、まちづくり課の相澤課長お願いします。

(1) 定住自立圏構想について【説明資料1 まちづくり課 相澤課長より説明】

(委員) 分らないところがあるので、お聞きしたいと思います。昼夜間人口の比率1以上とはどういうことでしょうか。昼間100人いて、夜になったらみんながどこかに帰って50人になったら、割ると2ですよ。そういうことですか。

(松本係長) 昼間に人が200人いて、夜逆に100だとします。昼間の人口を夜の人口で割り返したときに1以上という形になります。

(委員) 夜に人口が少なくなればよいということですね。もう1つ、資料の2ページ、結びつきやネットワークの強化についてbのデジタル・ディバイドの解消へ向けたICTインフラの整備とは何でしょうか。

(相澤課長) デバイドというのはどちらかというと悪いイメージの言葉になります。例えば、ひかり通信ができないとか、ADSLができないとか。そういうインフラが無いところを解消する、ひかり回線が無ければ作るようにしましょうというのが、日本語になります。

(委員) では、ICTとは何でしょうか。

(相澤課長) C抜かして、ITだと、インターネットやスマートフォンなどの意味になります。

(委員) お話を聞いて、住みよいまちづくりになるかなという感じです。しかし、こういうものを毎年見直して決まっていくのですけども、住民に対しての伝え方が、ここで忙しい中議論しているのに、住民には伝わっていないところが多いと思うので、しつこく住民に伝えるというのが必要なかなと思います。

(相澤課長) ビジョンをつくる市民委員さんという方が中心になってくるので、各町の住民の方に入っていたのがまず1つあると思います。加えて今、中村委員が言ったように、圏域が全部良くなっていくということは、それぞれの10市町の住民が理解する必要があるので、例えば私の所管でしたら、広報に載せる、ホームページで周知するということが大事になってくるのだろうなと思っています。

(委員長) それこそデジタル・ディバイドの解消になりますね。皆さん広報やホームページを見るので、1つの手段だと思っています。そういったことも含めて、広報の仕方というのは十分検討していただけたらなと思っています。

(委員) 行政用語が多いので、具体的にはなかなか理解できません。だいたい分っているのですけども。今の定住自立圏形成協定について、下の3つの枠で囲まれています。この項目ごとに1つずつ取り組むよう規定をしなければならないということなのではないでしょうか。この枠全体で3つの内の1つを取り上げなければならないということなのかが1つと、もし、どれかの枠組みが取り組めないということになると、この協定そのものが成り立たないということがあり得るのかどうか、お聞きしたいです。

(松本係長) この3つの中から、それぞれ1つずつなので、1つは最低でも選んでもらう形になります。それぞれ3つの視点からそれぞれ1つ以上になります。このうちの1つが抜けたらどうなるのかというご質問ですが、現在ルールの中で協定の中に盛り込まなければならないとなっていますので、成立しないものだとして認識しております。

(副町長) 補足いたします。3つの項目に分けていますが、1番最初の定住自立圏の基本的な考え方は、みんな東京や大阪、札幌などの都市に行ってしまう、田舎に人がいなくなるのは何で何だろうと考えたときに、札幌はすごく便利だからという理由でした。地方が生き残るためにはどうしたらよいかと考えたときに、ある程度の人口集積がある町を中心にして、その町だけでなく周辺の町のそれぞれのインフラと呼ばれる行政の財産を使って、そこをもう少し充実させれば、札幌に行かなくてもここでやっていけるよねという地域作りをしたいということが、イメージがあると思います。生活機能の強化をしたら便利になりますよね。その生活機能の強化をするためには、ネットワークがなければできないし、そのネットワークをきちんと作るためにはマネジメント、ネットワークを運営する力が必要になってきます。よって、それぞれが3つ兼ね合わさないとこの事業はできないと、考えていただくと分かると思います。それは医療だけでも良いし、極端に言うと、医療も福祉も教育も産業振興も環境も全部でも良いし。でも最低1つはないと、それぞれの項目の中から、1つずつは必ず繋がっていかないと、これ自身が意味ないよねという意味だと捉えてください。

(町長) 例えば、現在既に奈井江町で取り組んでいる取り組みの中に、医療がありますよね。病院でいうと、砂川との取り組みだけでなく、町内での取り組みもあるわけです。奈井江町で既に行っているものを、もう少し大きく広げると考えればいいわけです。

(副町長) 奈井江町はおかげさまで地域医療、包括ケアですべて全国でも先進的に行っているつもりです。他の町にしたら奈井江町のような取り組みをしたいというところもあるでしょうし、そのためには砂川市立病院や滝川市立病院と連携しないとできないことがあると思います。

(委員) 私もよく理解できていませんし、多分、一般の町民の方がこれを理解することに対しては、かなりの精力的なものがいると思います。どういう風に町内に進めていくのか、その辺のところはまだ検討の段階ではないのですね。

(町長) 資料に1つ、絵が描かれています。こういう風に目指そうということだけでして、具体的なものがないというのは事実です。したがって、例えば、砂川市、滝川市と連携するならばどういう風にすればよいか。奈井江町で不足しているものをどうやって補い合っていくか。こういうことも含めて、医療だけでなく他のこともあります。例を出すと、学校給食では生徒さんがどんどん減っている現状で、奈井江町と浦臼町だけで良いのかどうか。例えば砂川と連携することもあり得るかもしれません。将来展望を見ると、そういうこともあり得ます。よって、住民に広く知らせるばかりでなく、その都度、検討部会を作らざるを得ません。町議会だけでこういうふうにしますよと決めることはありません。定住自立圏構想はこういうふうに展開しますよと、中身についてはみんなと相談して、そしてより良いものを創り上げなければなりませんので、みなさん理解せざるを得ないと思います。

(委員)今、町長おっしゃるとおりで、1つの例として私の立場でいえば、社会福祉協議会を担っておりますけども、その中でもいろんな事業ごとに高齢化が進んできて、事業を進めるための後継者づくりが、かなり困難な部分が昨今出てきています。そういうことを考えれば、この構想で、他の町村と連携するだけではなくて、情報が入らないと改革していかせませんから、そのようなことを考えれば大事なことかなと。

(町長)例えば、雨竜町で去年、大水害がありました。田んぼから水を抜かなければならないけれど、雨竜の消防だけではどうしようもない事態になりました。滝川市と新十津川町にも応援を頼んだけれど、協定も何もありませんので、簡単に助けに行くということもできません。したがってお互いに助けあって、協力しあっていこうというのがこの中心市になります。市、町に安心して住みきるといふ地域作りに5市5町、中空知全体でしていこうという取り組みを、それぞれ機能を発揮しながら行っていこうという構想が定住自立圏の基本になります。今回、構想を述べましたが、これから具体的にっていきます。

(副町長)先ほど少し係長説明したとおり、圏域共生ビジョン懇談会をつくるのですが、具体的にこのことについて、あのこともみんなでやりましょうねと、各町から委員さんを何人かずつ出してもらって、奈井江町と砂川市はこういう形、滝川市と砂川市はこういう形、滝川市と赤平市はこういう形でという相談をして、それをみんなで行おうと決めていくのが、これからビジョンを作ったときに出てきますので、そのときにはおそらく皆さんの中からお願いしなければならぬと思いますが、そういうことをこれから絞り込んでいきます。

(委員)いつ持ち上がった話ですか。

(町長)去年の4月からです。

(委員)スケジュール見たら、1、3、6、9月とすでにスケジュールが決まっていますか。今日初めて聞いたのですが。

(町長)今日初めてお話ししました。各市町村で、第2の合併でないかと、相当もめておりました。私の立場からは、合併は今でもあり得ないと思っており、お互いに助け合い、制度を利用して協力し合うということです。ずいぶん前から論議があったことは事実です。これから各議会に諮って、具体的にっていきます。これから何年かかけて創り上げていくこととなります。中心市は、滝川市と砂川市になりますけども、まだ具体的ではありません。でき上がったものを行うのではなく、みんなで創り上げていくものになります。

(委員長)初めての議論という認識で伺っておりますので、忌憚のないご意見をお願いします。では、萬委員お願いします。

(委員)この3つの医療、福祉、教育や土地利用の部分は、市と町と集まり、全部をどこかで分担するやりかたとかではないのですよね。この部分は滝川市が中心で、ここは奈井江町が中心で行っていくとか、全部に対して行っていくことなのか、どれかを選んで、1つ、2つだけ

取り組むというのはあるのですか。

(町長)これからその話を進めていきます。今の時点で具体的なものはありません。ただ、お金に関して、中心市は4000万、構成市町には1000万出しましょうとなっております。それにふさわしいお金が必要になるだろうと思います。それぐらいまでしか内容は具体的に機能しておりません。福祉はどこが中心になって、どう行っていくか。医療も実際問題、赤平市に医者がいない、看護師がいない、よって砂川市から人材を出すかどうか、具体的には何も整っていません。しかし、これから住民参加の中でできることは行っていきたいと思っています。

(委員)住民参加で参加される方を選抜するのは大変なのかなと思います。

(町長)皆さんに相談しながら進めていこうと思います。

(委員)目的というか、ゴールがどこにあるのかなと思ったのですが。この辺の町で協力して住みよい地域を作りましょうというのがゴールなのか。その結果、奈井江町から札幌市に流出するのを防ぎましょうというのがゴールなのでしょうか。

(町長)この地域で連携しあいながら、お互いの機能、役割を果たし、住みやすい地域作りをしていこうというものです。それでなお、札幌市に行くというのだったらどうしようもありません。それで防げないのならどうしようもないでしょう。いずれにせよ今より良い形で、人口減少、少子高齢化に歯止めをかけるために協力をしなければなりません。福祉施設だってそうです。1市1町だけで行えるかどうか。地域全体、みんなで支え合って協力しなければならぬ時代になり、激しい人口減少が進んでいます。奈井江町も6000人を割りました。そういう状況がどんどん進んでいきますから、定住自立圏構想としてみんなで5市5町で協力して行っていこうという形になります。それが札幌への流出を防ぐかどうかは、まだ分かりませんが、できるだけ住みよい地域作りをみんなでしていこうということです。

(委員)ねらいとしては人口流出を防ぐと書いてあるので。札幌に行く人をここにとどめると。

(町長)現実問題として、例えば、砂川市立病院は医療の分野で優れていて、医者も看護師もたくさんいます。それをどうやって連携していくか。それこそ、赤平市は医者がいなくて困っていますし、北空知は圏域に入っていませんけど、雨竜町も大変な時代になっています。そこでより住みやすくするためにみんなで知恵、力を集めて行っていこうということです。

(委員)資料見たときに何が書いてあるか全然分からなかったのですが。質問されている方のお話を聞いたら少しは分ってきました。遊びのフェスティバルですが、これはみなクルで行われたのですか。

(馬場課長)はい。

(委員)この間、ひまわりクラブがありましたときに参加させていただいたのですが、すごい人数で、ゲームとかをしていて皆さん喜んでいましたので、良かったのではないかなと思

います。

(町長)私も行って見学していたところ、ずいぶん利用が増えてきているなと思いました。子どもたちが一生懸命遊んでおり、子どもだけではなく、お母さんお父さんも寄りあって、笑い合っていました。普段あまり話をしない若いお母さんが、「町長、私は最初反対していたのだけどこれは良いことですね」とおっしゃっていました。ただ、隣の人が、「イベントに出てくる人は良いけれども、出てこられない子どもがいます。そのことも考えて欲しいです」と言われました。出てくるようにどうやってしていくか、それはみんなで考えましょう、という話もしました。大変にぎやかで良かったと、ああいう交流は成長過程で大変大事なことだと思います。

(委員)子どもさんについてきているお母さんは不安だったり、お友達とお話する機会もなかなかなかったりして、結構不安なことも経験上あるのですが、この場所に来てくださった方は、横の繋がりができて、幸せを感じたのではないかと思います。108名の方が参加していたみたいなので、大変良かったと思います。

(町長)子どもが出てきてないけど、ご両親が出てきて、どうやってなじませようかな、どうやって仲間に入れようかなということを考えているからここにいます。良いことだなと思いました。みんなで知恵を出し合っていきたいと思います。

(石川委員)私も資料をいただいて目を通したのですが、定住自立圏の自立は根本的にどういうことが自立なのでしょう。町から人が出て行かないようにするという何かを作って、皆さんで協力するということ何でしょうけども、いろんな方と出会って思ったのが、私たちみたいな年齢になって自分のことができなくなりましたら、町外にいらっしゃる子どもさんのところに皆さん行ってしまうのが目的で住んでいるのですよね。だからそういう方たちを、どういうふうに皆さんと楽しくできるのかということも心配りをできなければ、一般の方々が年配者の方をきちんと理解できるまでは、まだまだ大変なのではと思います。自分自身において、こういう構想ができ上がって、近隣の町と協定できたときには、自分もいなくなるかもしれません。ですからそれは未来、将来としてそういう結びつきも大変。自分自身も医療として関わってくることで、奈井江町の国保病院で診察を受け、近いから良いのかなと思って受けたときに、ドクターからこの科目がないので市立に行ってください。ここでは治療できませんと言われて市立に行きましたら、市立では全部そういうことははっきりしてくれて。何かあったときには奈井江町の病院に受診しても良いけども、直ぐ来るようにと。やっぱり連携などいろんなことをして行っているということは、私自身は助かると思います。すんなり行けて、すんなり説明してくれることも大事だなと思いましたし、年配者の人たちもこういう構想を理解できるようにしていただきたいと思います。私自身理解するのが難しいので。

(町長)おっしゃるとおりだと思います。みんなが理解できるようにそれぞれの分野で用意していきます。ここで、議会で全部決まるというわけではありませんから。みんなで相談しながら行っていきたいと思います。

(委員)私も初めて会議に出て思ったのが、ゴールが分らない。これから決めていくというこ

となのですが、今までも奈井江町はいろいろな面でいろいろな町と連携をして行って来たと思うのです。その中でなぜ、今になってこういう形で、行わなければならないのかなと。これも手を広げるというのでしょうか。いろいろなところで勉強してきたのに、今までで何か問題があったのかなと、思います。資料3の5ページ目をみると、中空知の連携のイメージと書いてありますが、結局は滝川市、砂川市に合併しちゃうのかなと、私には思えるのですが。合併のために定住自立圏を作り、結局は合併するための準備なのかなと。先ほど副町長とかもおっしゃったように、札幌などの大都市への人口流出を防ぐというのであれば、住みよいまちづくりも1つの策だと思いますし、そういった環境も必要だと思います。しかし、住みやすくないから出て行くのかといたらそうではなくて、仕事があるから私は出て行くのだと思います。なので、もっと仕事とか、若い人が就職できるような企業とかそういったものがあれば、もっと人口も増えてくるのではないかと思います。住みやすいまち、病院の連携も本当に必要だと思います。奈井江町に病院があって私も良いと思います。ただ、人口流出を防ぐためには、もっともっと仕事を、視野に入れて、これからの会議で決まってくると思うのですが、そういったことを考えて住みやすいというだけではなく、若い人たちを集める努力も、仕事で来れるまちづくりを、皆さんで、5市5町で相談してほしいなと思います。

(町長)今、鈴木委員がおっしゃっていたことが課題になって、もめていました。滝川市を中心として第2の合併になるのではと。砂川を含めて人口減少傾向にあるので。要するに合併への道筋ではないかという議論があって、今まで議論し、時間がかかっていたことは事実です。しかし、実際問題、私どもそこで主張したのですけども、あくまでも、全体5市5町のレベルアップであって、滝川市、砂川市のためにやるのではないと。こういうことをきちんと言ったうえで今回の定住自立圏になります。そういう意味も含めて、今、鈴木委員から話があったように、仕事がないと出て行くのは当たり前ですが、その点からすると奈井江町はある程度企業は立地されていますから、そういう意味で、みんな地域作りをして行こうというのも1つの方法だと。したがって、全体的に札幌圏域に年を取ったら行ってしまい、学校を出たら都市から帰ってこないという人もいることも事実です。それを少しでも防ごうということで、協力し合っていこうということが大切だと思います。

(委員)おっしゃっていることは分るのですが、やはり、先ほど行ったようにゴールが見えていないのが気になります。これから作っていくとおっしゃっていますが、何のためにやらなければならないのかなと。

(町長)ゴールが先に見えて、どうのこうのというわけではありません。住みよいまちづくりをみんなで協力し合ってやろうというものが定住自立圏構想です。5市5町でお互い協力しあってやろう、というものですから。それによって、こういう地域ができるよという構想の中で目的持ってやるという意味ではなく、少しでもお互いの地域作り、町の機能を生かし合いながら協力し合っていこうということが事実ですから。どんな目的があってこういうことをするのかというよりは、協力し合っていくという意味になります。私たちは広域連合を行っていました。雨竜だとか、新十津川だとか地域だけで行って来ました。これはこれでやりますけども、滝川市、砂川市、あるいは赤平市も含めて地域全体で行っていくことがあるかと言ったらあまり無いのです。広域圏ということで、交通災害などで部分的に行っていますが、あとはほとんど行っていません。滝川市や砂川市とも協力し合ってお互いに地域作りをする。これは決して悪いこ